



産学官連携のノウハウを若者ネットワークづくりに活かす

# 学生キーマンを大胆起用! AREC、若者にじわり浸透中!!

新製品や新事業の開発を多く手がけ、数々の受賞実績を誇る、地方の産学官連携組織の雄「上田市産学官連携支援施設 AREC（アーレック）」。2000年の設立当初からその軽いフットワークを活かし、強力な企業ネットワークを構築してきた。その結果、いまでは産学連携のみならず、産産連携を新たなビジネススキームとして提供する存在となっている。そんなARECに聞こえ始めたのが「数年後の企業を担う若手人材の不足」という新たな課題だ。そこで、産学連携で培ったネットワークとノウハウを応用し、若者の関心を上田の中小企業に向けてのための新たな挑戦が始まった。



## 「効く!」ポイント1

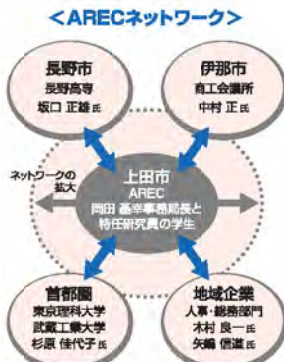


### 人事担当者の情報交換に新たな場を創出 北信・南信、そして首都圏に若者の拠点を構築中

ARECはもともと、175社の会員企業を抱える産学官連携施設だ。企業の技術部門とは、既に強力な信頼関係が築かれている。そこで、今度は人材獲得に関して情報交換していこうと、新たな展開を画策している。それが人事・総務担当者の組織化だ。

ARECでは既に、南信の伊那商工会議所に分室が置かれ、ハローワーク長野と共同で就職相談会が開催されるなど、人材支援プログラムの強化策が進行中だ。さらに、地元への就職意識の高い長野工業高等専門学校の学生に働きかけ、企業見学会や企業講演会も実現した。しかも、首都圏の大学に通う、長野出身の学生にUターンを狙ったヒアリング調査も実施。着実に学生との輪が広がっている。

ここに、企業の人事・総務部門との情報ネットワークが形成されれば、企業のニーズと、学生のウォンツをマッチングさせることができる。ARECを軸に、学生・企業が集まる情報拠点が出現するというわけだ。



Uターンに関するヒアリングは思った以上に反応がよく、首都圏の大学生を集めた就職相談会や、地域企業との交流会も検討中。今後ますます充実するこれらの取り組みに、企業ネットワークは欠かせない。

## 「効く!」ポイント2



### 学生が学生を呼び、参加者が徐々に増加中! 学生の意見も活発に飛び交うARECでの交流会

ARECの取り組みは、若者や企業のネットワークを活用し、お互いの交流の場づくりへと拡大している。この運営に携わるのが、ARECの「特任研究員」に任命された9名の学生たちだ。彼らは企業と学生の交流会を企画したり、企業が気付にくい「学生の本音」や「学生の関心」にフィーチャーした「学生のための就職セミナー」を開催したりと、さまざまなアイデアで運営をサポートする。さらに、人脈を駆使して、それぞれの企画に合った学生に参加を呼びかけるなど、クチコミを活用した学生ネットワークが徐々に拡大中だ。その甲斐もあり、定期的に行われているランチ交流会と並行して行われた座談会では、様々な意見が飛び交った。「企業の経営理念も知りたいが、一番関心があるのは仕事のやりがいなど、具体的な話。経営者の話だけではなく、社員の話も聞いてみたい」という前向きな意見も聞かれた。

このような声があがる一方で、中小企業の情報に対して消極的な姿勢が見られるのも事実。「自分のやりたいことがわからないまま就職活動をはじめれば、目に留まりやすい大手に意識はかたよる」「学生は興味のない企業の話は聞かない。だから、もしかしたらその話がきっかけになって人生が変わるかもしれない、ということに気付くきっかけが必要では」と、学生への働きかけや企業の情報発信方法を考え直すヒントが出てきた。そこで、当初企画していた企業と学生の交流会とは別に、学生の仕事に対する意識を高める「やりがい探し」のプログラムもスタート。会社の規模や地域にとらわれず、自分のやりたいことを実現できる企業に目を向けること、さらにはそれをきっかけに、上田の企業への関心を高めて欲しいという願いも、そこにはこめられている。



「学生が求めているのは企業への共感。経営者としての考え方をいかに企業の魅力として伝えていけるか、そこがポイントだろう」と、ランチ交流会に参加したラナビイク(株) 新田氏



医療関係の洗浄・滅菌処理機器の製造のサクラ精機(株)にリラックスした雰囲気での訪問

## 参加企業Voice

### 学生が知りたい情報と企業が知らせたい情報のミスマッチ このような場を活用して、それを解消していきたい!

ラナビイク株式会社 代表取締役 永濱 健氏



メンテナンス事業や介護システムの開発、環境商品を手がけるラナビイク(株)の永濱社長は、繊維学部感性工学科の学生が運営するTシャツのオンデマンドプリントショップ「オンデマンドリメイク」内で行われた座談会を「実に有意義な時間だった」と振り返る。当初は「上田には色がない。地域に魅力を感じないから、どうしても企業まで目が向かない」と語る学生に、驚きを隠せなかったが、それが現実だと思いついた。「自分達が伝えていると思っていたことは間違いだったのだと気付きました。これからは学生が知りたい情報と、企業が知らせたい情報のミスマッチを解消していきたい」と理解を示す。だが、永濱社長が事業への信念を語り始めると、学生の目の色が変わったのも事実。学生は「上田にも高い志を持つ、すばらしい企業があることを知った。今まで気付かなかったのが腑かずかしいくらい。大きな刺激になった」と感想を漏らす。経営者と直接語り合う機会が、確実に学生の意識を変えた。求人情報誌や掲示板だけでは伝わらない、言葉と意思の温もりをしっかりと伝えることのできる座談会。ARECの活動は、学生と企業の未来の幅を広げたようだ。

この事業に関する  
質問・お問い合わせ先

財団法人 上田繊維科学振興会 上田市産学官連携支援施設 (AREC)  
〒386-8567 長野県上田市常田3-15-1  
TEL.0268-21-4377 FAX.0268-23-6673 URL <http://arecplaza.jp/>